

=====

◆◇「犯罪からの子どもの安全」メールマガジン vol.29 ◇◆
2011年1月31日号

=====

このメールマガジンでは、(独)科学技術振興機構 社会技術研究開発センター(以下、RISTEX)「犯罪からの子どもの安全」研究開発領域が領域の活動報告をはじめ、各種イベント案内、国の取組み、問題に取り組む人々の紹介など、犯罪からの子どもの安全に関する様々な情報を毎月一回程度配信しております。

次回から配信を希望されない方、登録情報を変更したい方は、末尾をご参照下さい。

メルマガについてご意見やご感想、こんな情報が知りたい、こんな取り組みを行っているなど、皆様からの情報をお待ちしています！

◆◆ INDEX ◆◆

1. 研究開発領域・プロジェクトの活動紹介
2. 犯罪からの子どもの安全レポート
・シンポジウム「青少年とケータイ・メディア」参加レポート
3. 「犯罪からの子どもの安全」WEBサイト更新情報
・国の取組み情報
・イベント情報
・見どころピックアップ！
4. 「犯罪からの子どもの安全」WEBサイトアクセスランキング
今月一番注目されたコンテンツとは・・・
5. 今月のキーワード
GPS所持

◆◆◆◆

皆さんこんにちは！

今は、一年のうちでもっとも寒さが厳しい時期とされる「大寒」の真ただ中です。そう聞くと、なおさら寒さが身にしみてくるような・・・大寒は、1月20日ごろから立春までの2週間あまりです。それを過ぎると暦の上では「春」です。

寒さも和らぎ始める2月の第3週の日曜日、2月13日に当領域主催の第4回シンポジウム「『虐待かも・・・』小さなサインを、大きな支援へ」を開催します。先日、臨時号でもお知らせさせていただきましたので、すでにご存じの方もいらっしゃるかもしれません。

今回は、深刻な社会問題である子ども虐待への科学的取り組みの最前線をご紹介しますと共に、子どもへの虐待を未然に防ぎ、深刻な事態に陥る前に適切な支援につなげるために、私たちそれぞれに何ができるのか、皆様と

一緒に考えてみたいと思っています。以下のURLから申し込みができますので、ご興味ご関心のある方は、ぜひご参加ください。

http://www.the-convention.co.jp/kodomo_sympo4/

虐待同様、子どもを取り巻く問題となっているものの一つに、ケータイ・インターネットがあります。先月のメルマガで、コミュニティサイトにて、年齢を偽って登録した大人によって、子どもがトラブルに巻き込まれることを防ぐため、サイト登録時に携帯電話加入情報から年齢を確認するという対策について検討が始まっているとお伝えしましたが、具体的な動きがありました。

KDDIがau携帯電話の利用者情報を活用した「年齢確認サービス」の提供を始めるというのがその内容です。まずはグリーから、次いでミクシィやモバゲータウンなど、順次対応していくとのこと。どれも子どもたちに人気のサイトです。提供されるのは、コンテンツ提供会社が指定した年齢以上であるか未満であるかの情報ということ。「なりすまし」による被害防止が期待されます。

http://www.kddi.com/corporate/news_release/2011/0119a/index.html

インターネットの問題は、上記なりすまし以外にもさまざまあります。子どもたちがそういったトラブルに巻き込まれることなく、ケータイ・インターネットを、安全、安心に使うため、フィルタリングの理解や徹底を図ることを目的に、1月23日にシンポジウム「青少年とケータイ・メディア」が開催されました。当日の様子は、今号のレポートに掲載しています。ぜひご覧ください。

それでは、最後までお楽しみください。

1. 研究開発領域・プロジェクトの活動紹介

今月の領域およびプロジェクトの動きをご紹介します。まずはプロジェクトから。

「計画的な防犯まちづくりの支援システムの構築」プロジェクトが、1月13日にミニシンポジウム「子どもの移動自由性と安全なまちづくりに向けての子どもの参画」を開催しました。同プロジェクトの実施者のみならず、海外からのゲストや「子どもの被害の測定と防犯活動の実証的基盤の確立」プロジェクトの実施者の方も講演された模様。イベントの様子がプロジェクトのホームページに掲載されていたので、URLをご紹介します。

<http://kodomo-anzen.org/partners/jigyo/event/212/>

「犯罪からの子どもの安全を目指したe-learningシステムの開発」プロジェクトでは、1月19日に第12回プロジェクト実施者会議が行われました。定期的にミーティングを開き、相互理解、内部での共有など、協働を進めている様子です。

「子どものネット遊び場の危険回避、予防システムの開発」プロジェクトおよび「子どもの犯罪に関わる電子掲示板記事の収集・監視手法の検討」プロジェクトは、1月23日に行われたシンポジウム「青少年とケータイ・メディア」の際に、パネル展示を行いました。出展したプロジェクト実施者

たちが参加者の中高生たちに囲まれ、談笑している一幕も。イベントの詳細は、今号のレポートをご覧ください。

領域では、冒頭に記載いたしましたように、来月13日に控えたシンポジウムに向けて、準備も佳境に入っています。様々なお立場の登壇者から多様な議論が展開されること、受け合いです。ぜひご期待ください。

本で行われた領域会議では、マネジメントグループにより、各プロジェクトの進捗状況等について話し合われました。社会実装を視野に入れることで、研究開発に留まるものとは異なる、新たな難しさ、困難にもぶつかることがあります。検討を進めています。

2. 犯罪からの子どもの安全レポート

●シンポジウム「青少年とケータイ・メディア」参加レポート 2011年1月23日 東金文化会館（千葉県東金市）

最近では、子どもたちが通学途中などにケータイを手に行っている姿も珍しくなくなりました。ケータイには、いつでもどこでも連絡がとれる、学校以外の共通の趣味を持った人たちと交友関係を築けるなど、多くの利点があります。

一方で、無料と大々的に宣伝している携帯電話のゲームサイトを利用していたら、高額な利用料を請求された・・・そんなトラブルが急増していると聞きます。ゲームサイトの中には、SNS（会員制交流サービス）機能付きのものもあり、出会い系のように利用されトラブルが起こっているという実情もあります。

そういった危険に子どもたちが晒されないようにするためにどうするべきかについて考えるシンポジウムが開催され、参加してきました。今回の特徴は、子どもたち自身が登壇をして、体験談を話し、実情を知るところにあります。参加者の中にも制服姿の中高生や小さなお子さんを連れた家族連れなどの姿が見られました。

このシンポジウムにおいて当領域関係では、アドバイザー2名の登壇があり、また、会場に隣接するスペースでは、子どもを取り巻くインターネット問題に取り組む2プロジェクトのポスターや資料、デモンストレーションの展示も行われました。

まず基調講演では、藤川大祐氏が登壇。子どもたちとメディアに関する統計や、ケータイ・インターネットにまつわる問題や課題について、事例を交えながら話されました。

中高生がケータイ・インターネットでよく利用しているサイトに、自分のプロフィールを掲載していろいろな人と交流を図る「プロフ」と呼ばれるものがあります。これについて、実際のページを紹介しながら説明。

高校生の4割が利用したことがあり、中には、実名や写真、生年月日を掲載してしまっている子も。こういった情報から家や学校が特定され、ストーカーまがいの被害にあったり、書き込みの内容が原因で殺人に至ってしまったケースもあるとのこと。うっかり書いてしまったではすまされない現状があらわになりました。このような事態を受け、サイト側も監視体制を強化しているとのことでした。

そもそも、そういった被害に遭うことを未然に防ぐための策の一つとして

挙げられるのがフィルタリングです。18歳未満の子どもに対し、原則設定が義務付けられているはずなのですが、インターネットを通じて何らかの被害に遭った児童の約9割以上がフィルタリングに未加入だったという調査結果も公表されました。これは、講演者の藤川氏も想像を超えた数値だったとのことで、課題は残されている模様。

他にもケータイそのもので施せる対策として、子どもの年齢に応じてケータイの利用できる範囲（機能）が自動的に変わる「標準未成年プラン」が紹介されました。また、子どもたち自身も、主体的にメディアを使えるようになるために、メディアリテラシーを向上させることが必要と述べていました。

続いて、中学、高校、大学生および保護者の方によるパネルディスカッションです。現役の学生たちの声が聞ける機会は、これまでになかなかなかったので、期待が高まります。コーディネーターを務めるのは、高橋邦夫氏です。

まず印象的だったのは、それぞれの年代で、携帯の所持率や主な用途が異なるという傾向が見えた点です。中学生では、ゲームや掲示板の書き込みなどに利用している子もいるようですが、基本的には連絡手段という考えが前提のように感じました。クラスにもまだ持っていない子もいるとのこと。それが高校生になると、クラス全員が持っており、よりコミュニケーションの手段としての利用や考え方が一般化しているようでした。

もう一つは、ケータイを使いこなしているようでいて、実は何かあったときの基本的な対策方法を知らないということです。例えば、身に覚えのない料金を請求するメールや脅しの電話がかかってきた場合、メールも電話も着信拒否という機能があるにも関わらず、使っていなかったり、フィルタリングがかかっているのかいないのかを把握していない、または詳細な設定方法を知らないなどです。そういったことを学校の授業などでもっと具体的に学べる機会がほしい、といった声が年代を問わず上がっていました。

最後に高橋氏が、デメリットが限りなく小さい環境を目指し、それぞれがやるべきこと、役割があると思って、社会が改善に向かっていくことが必要と締めくくっていました。

インターネットに潜む危険や怖さを、情報を発信する側も受け取る側も、大人も子どももそれぞれがきちんと認識した上で、機械そのものと自分自身に必要な対策を施せるようになることが、安全安心なネット環境の実現への道のりだと改めて実感する機会になりました。

(領域担当 . S.F)

3. 「犯罪からの子どもの安全」WEBサイト更新情報

【更新情報】

●国の取組み

犯罪死の見逃し防止に資する死因究明制度の在り方に関する研究会
第10回会議議事要旨（警察庁）

<http://www.npa.go.jp/sousa/souichi/gijiyoushi10.pdf>

死刑の在り方についての勉強会（第4回）（法務省）

http://www.moj.go.jp/keiji1/keiji12_00016.html

少年矯正統計統計表（平成22年11月分月報公表）（法務省）
http://www.moj.go.jp/housei/toukei/toukei_ichiran_shonen-kyosei.html

平成22年度青少年健全育成指導者養成研修会の開催について（文部科学省）
http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/23/01/1301489.htm

児童養護施設等の社会的養護の課題に関する検討委員会の設置について
（厚生労働省）
<http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/2r98520000010mz4.html>

第10回児童部会社会的養護専門委員会 議事録（厚生労働省）
<http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/2r98520000010bmq.html>

その他の取組みについてはこちら
→ <http://www.anzen-kodomo.jp/ministries/>

●イベント情報

平成23年2月6日 文部科学省 子どもを見守り育てる「新しい公共」
研究フォーラム ～地域において子どもを見守り
育てるネットワークをつくる～
http://www.mext.go.jp/a_menu/shougai/katei/1300838.htm

平成23年2月12日 東京弁護士会 他 子どもの権利条例シンポジウム
「届け！子どもの声～子どもの権利条例で実現できること～」
<http://www.toben.or.jp/abouttoben/committees/kodomo/event/20110212.html>

平成23年2月13日 第4回「犯罪からの子どもの安全」シンポジウム
「虐待かも・・・」 小さなサインを、大きな支援へ
http://www.the-convention.co.jp/kodomo_sympo4/

その他のイベントについてはこちら
→ <http://www.anzen-kodomo.jp/event/>



【見どころピックアップ！】

今回の見どころはトピックスから、プロジェクト実施者インタビュー
第12回です。

今回インタビューさせていただいたのは、「子どもを犯罪から守るため
の多機関連携モデルの提唱」プロジェクトの実施者の皆さんです。

子どもたちを被害者にも加害者にもさせないために、関係諸機関の連携が
欠かせません。しかし、縦割りの組織の弊害などもあり、なかなか難しいの
が現状です。そんな中、現状を解明し、法的な検討も加え、適正かつ有効な
多機関連携モデルの提唱を目指しているのが、当プロジェクトです。

複数の地域の児童相談所や学校、警察、矯正施設などの様々な機関と連携
しながら取組みを進めている実施者の皆さん。記事中には、協力関係に至る
までのご苦労やご自身のこれまでの体験談など、地域と協力しながら進めて

いる取組みならでのエピソードも。ぜひご覧ください。

プロジェクト実施者インタビュー 第12回
「子どもを犯罪から守るための多機関連携モデルの提唱」研究開発プロジェクト
→ http://www.anzen-kodomo.jp/pdf/ad_12.pdf

4. 「犯罪からの子どもの安全」WEBサイトアクセスランキング

【アクセスランキング】

- ☆1位 プロジェクト関与者インタビュー
携帯電話、インターネット問題の怖さを子どもを見守る親の立場から
伝えたい
http://anzen-kodomo.jp/pdf/ad_04.pdf
- 2位 第1回「犯罪からの子どもの安全」シンポジウム予稿集
<http://anzen-kodomo.jp/column/20080228/img/yokou.pdf>
- 3位 プロジェクト実施者インタビュー 第7回
「犯罪から子どもを守る司法面接法の開発と訓練」プロジェクト
<http://www.anzen-kodomo.jp/pdf/20091125.pdf>

5. 今月のキーワード

「GPS所持」

宮城県で、性犯罪で服役後出所した県内在住者などにGPS（衛星利用測位システム）を所持させるという条例の制定を検討していることが明らかになりました。所持していない場合には罰金を科し、必要に応じてDNAの提出も求めるということです。

1月22日に提示された試案によると、監視の対象となるのは、県内在住で女性や13歳未満の子どもへの強姦、強制わいせつなどの性犯罪で有罪となり刑務所を出た成人および、ドメスティックバイオレンス（DV）防止法に基づき、裁判所から被害者への接近禁止の保護命令を受けたDVの加害者。

再犯リスクが高いと判断されるとGPSを携帯させられ、県警が常時監視するとのこと。ただ県条例のため、効力の範囲は県内に留まります。

GPSを用いた監視はアメリカや韓国などで導入されていますが、日本ではまだ例がありません。常時監視ということで、基本的人権との兼ね合いもあり、各方面から慎重な議論の必要性が訴えられている様相。

宮城県知事村井嘉浩氏は「批判やタブーを恐れず、少しでも前に進み、犯罪抑止に貢献をしたい」との想いを述べ、平成23年度中に条例を議会に提案できるよう準備したいと考えているとのこと。今後の動きが注目されます。

「犯罪からの子どもの安全メールマガジン」

▼メールマガジンに関する各種変更、配信登録・解除はこちら

<http://www.jst.go.jp/melmaga.html>

▼ご意見・ご感想、お問い合わせはこちら

c-info@anzen-kodomo.jp

■発行日 2011年1月31日

■発行元

(独) 科学技術振興機構 社会技術研究開発センター

「犯罪からの子どもの安全」研究開発領域

領域WEBサイト <http://www.anzen-kodomo.jp/>

社会技術研究開発センターWEBサイト <http://www.ristex.jp/>
